

第 號

案 起

昭和十六年十二月十九日

裁可	昭和	年	月	日	施
決定	昭和	年	月	日	行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣

內閣書記官長

法制局長官

內閣書記官

皇表ニ帝國議會ニ提出ノ儀上裁ヲ經テ爾敬産
 官理法案中訂正ノ儀左案ヲ以テ侍從長
 ヲ經相伺可然哉

伺 案

皇表ニ帝國議會ニ提出ノ儀上裁ヲ仰キ

タル敵産管理法案中左ノ通訂正致度

記

附則第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵

國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ

外國ニ於テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ

掲ゲルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスル

モノハ行爲ノ時ニ逆リテ無効トス

之ヲ

(藏、爲、昭、一六、一三、一四)

敵産管理法案

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選任シ之ヲ管理

セシムルコトヲ得

本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ヲ謂フ

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債權ノ目的物タル命錢又ハ物

支拂又ハ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産ハ事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ムガ第一條第一項ノ管理ニ付セラレタルトキハ其ノ財産ハ事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ムニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スルモノ、外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者、外國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモノ、取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政

府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生セズ

一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産

二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資

三 本邦證券

四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ歸スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ弁レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府諮問ニ應ズル爲敵産
管理委員會ヲ置ク

敵産管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵国、敵国人其他
命令ヲ以テ定ムル者ノ外国ニ於テ爲シタル行為ニシテ第
五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行為
ノ時ニ溯リテ之ヲ無効トス

敵産管理法案理由書

敵國及敵國人等ノ財産ニ關シ管理人ノ設置、賣却命令其ノ他ノ措置ヲ講ジ得ルノ途ヲ拓ク等ノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ



敵產管理法案帝國議會へ提出ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十六年十二月十四日

内閣總理大臣東條英機



大甲 四三七

十二月十四日 裁可

昭和十六年十二月十四日

內閣書記官長

並

內閣書記官

內閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

齋

海軍大臣

五

商工大臣

五

厚生大臣

海

內務大臣



司法大臣

五

遞信大臣

五

鈴木四郎大臣

再

大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

五

拓務大臣

五

別紙外務內務大藏司法商工拓務大臣請議

法制局

敵産管理法条

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈条附箋ノ通

敵産管理法条

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

昭和十六年十二月十六日
貴へ

内閣總理大臣

大藏大臣

主任者 為替局總務課長野田大藏書記官



竝ニ其ノ國人ニ關スル取引ニ付テハ本年七月ノ
替管理法ニ依リ嚴重ナル取締ヲ實施シ來リ特ニ
不、英兩國ニ對スル宣戰ノ布告以後ニ於テハ之ヲ一層強化シタルモ
更ニ敵國及敵國人ニ對シテハ其ノ財産ニ付管理人ヲ設ケ、強制處分
ヲ命ズル等積極的措置ヲ講ズルノ要アルヲ以テ右ニ關スル法律案ヲ
第七十八回帝國議會ニ提出セントス
仍テ別紙法律案竝ニ同理由書ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十六年十二月十二日

大藏大臣 賀屋 興

宣



大甲四三七

外務大臣 東 郷 茂

内務大臣 東 條 英

司法大臣 岩 村 通

德



機



世



大藏省

內閣總理大臣
東條英機殿

拓務大臣
井野碩哉

商工大臣
岸

信



大藏省

敵産管理法

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選任シ之ヲ管理セシムルコトヲ得

本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産ハ事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ムコトヲ謂フ

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債權ノ目的物タル金錢又ハ物

ノ支拂又ハ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム）ガ第一條第一項ノ管理ニ付セラレタルトキハ其ノ財産（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム）ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スルモノノ外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産

二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資

三 本邦證券

四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ免レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役又

ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲敵産管理委員會ヲ置ク

敵産管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大藏省

敵産管理法案理由書

敵國及敵國人等ノ財産ニ關シ管理人ノ設置、賣却命令其ノ他ノ措置ヲ講ジ得ルノ途ヲ拓ク等ノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

拓甲 三七八

昭和十六年十二月二十日

内閣書記官長

内閣書記官

十六年十二月二十日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

若

海軍大臣

商工大臣



厚生大臣

若

内務大臣



司法大臣

还

逓信大臣

五

鈴木國彦大臣



大藏大臣

興

文部大臣



鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

物

拓務大臣

物

別紙拓務大臣請議敵産管理法ヲ朝

去 刑 局

一〇

鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件
ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法制局 第 三 〇 〇 三 號

昭和十六年十二月二十一日



主任 殖産局川本書記官



殖總第二〇〇三號

敵産管理法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件

今般敵産管理法制定ノ趣旨ニ鑑ミ朝鮮、臺灣及樺太ニ於テモ敵國及
敵國人等ノ財産ヲ管理スル爲同法律ノ一部ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施
行スルノ要アリ仍テ別紙勅令案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

昭和十六年十二月二十日

拓務大臣 井野碩 哉



内閣總理大臣 東條英機 殿

拓甲三七八

朕敵産管理法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御名御璽

昭和十六年十二月二十二日

内閣總理大臣

拓務大臣

勅令第千七百七十八號

理由

朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル敵國及敵國人等ノ財産ニ關シ管理人ノ設置、賣却命令其ノ他ノ措置ヲ講ジ得ルノ途ヲ拓ク等ノ必要アルニ依ル

參照

敵
產
管
理
法



IMT 658

322

敵産管理法

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選任シ之ヲ管理セシムルコトヲ得

本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ヲ謂フ

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債權ノ目的物タル金錢又ハ物ノ支拂又ハ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産

一

(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ガ第一條第一項ノ管理ニ付セラレタルトキハ其ノ財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スルモノノ外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

- 一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産
- 二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資
- 三 本邦證券
- 四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ免レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對

シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲敵産管理委員會ヲ置ク
敵産管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於
テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行爲ノ時ニ
遡リテ之ヲ無効トス

大甲四四六

昭和十六年十二月二十日

內閣書記官長

內閣書記官

昭和十六年十二月二十日
昭和十六年十二月二十日
公布

內閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

有

海軍大臣

商工大臣



厚生大臣

海

內務大臣



司法大臣

五

遞信大臣

五

給水國務大臣



大藏大臣

興

文部大臣



鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

木

拓務大臣

木

別紙內務外務大藏司法四大臣請議敵產管理

去
制
局

法施行令制定ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕敵産管理法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御名 御璽

内閣總理大臣 昭和十六年十二月二十二日

内閣總理大臣
大藏大臣

拓務大臣

勅令第千百七十九號
呈案附箋一通

大藏省

内務大臣 東條英



司法大臣 岩村通世



商工大臣 岸信介

內閣總理大臣
東條英機殿

拓務大臣
井野碩

哉



大藏省

- 一 敵國內ニ居住スル個人
 - 二 法人ノ敵國內ニ在ル支店其ノ他ノ營業所
 - 三 敵國人以外ノ法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ敵國、敵國人又ハ敵國內ニ居住スル個人ニ屬スルモノ
 - 四 大藏大臣ノ指定スルモノ
- 大藏大臣前項ノ規定ニ依リ指定シタルトキハ之ヲ告示ス
- 第四條 敵產管理法第一條第一項ノ管理人（以下敵產管理人ト稱ス）ハ大藏大臣之ヲ選任ス
- 大藏大臣ハ必要アルトキハ敵產管理人ヲ解任スルコトヲ得
- 第一項ノ規定ニ依リ敵產管理人ヲ選任シタルトキハ大藏大臣之ヲ

告示ス前項ノ規定ニ依リ解任シタルトキ亦同ジ

第五條 敵産（敵産管理法ニ規定スル敵産ヲ謂フ以下同ジ）ニシテ敵産管理人ノ管理スルモノノ處分其ノ他ノ行爲（法人ノ事業又ハ營業ノ管理ニ在リテハ法人ノ意思決定、業務執行及代表ヲ含ム）ヲ爲ス權限ハ敵産管理人ニ專屬ス

敵産管理人ノ管理スル敵産ニ關スル訴ニ付テハ敵産管理人ヲ以テ原告又ハ被告トス

第六條 敵産管理人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス

敵産管理人ガ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ敵産管理人ハ利害關係人ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ズ

第七條 敵産管理人ハ其ノ管理スル敵産中登記又ハ登録アルモノニ付テハ管理ノ開始後遲滞ナク當該敵産管理人之ヲ管理スル旨ノ登記又ハ登録ヲ申請スベシ

前項ノ規定ハ法人ノ事業又ハ營業ガ敵産管理ニ付セラレタルトキ當該法人ニ付之ヲ準用ス

第八條 敵産管理人ハ前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登録ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク變更ノ登記又ハ登録ヲ申請スベシ

敵産管理人ハ管理終了シタルトキハ遲滞ナク前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登録ノ申請スベシ

第九條 前二條ノ規定ニ依リ登記又ハ登録スベキ事項ハ登記ルコトヲ得ズ敵産管理人ニ依ル事務者其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大藏省

第十條 大藏大臣ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ大藏大臣ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 敵産管理法第五條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ム

ル所ニ依リ認可申請書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

第十二條 敵産管理法第七條ノ規定ニ依リ支辨スベキ敵産管理人ノ報酬ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十三條 本令中大藏大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大藏省

理由

敵産管理法ノ制定ニ伴ヒ同法施行令ノ制定ヲ要スルモノアルニ依ル

大藏省

參照

敵
產
管
理
法



IMT 658

340

敵産管理法

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選任シ之ヲ管理セシムルコトヲ得

本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ヲ謂フ

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債權ノ目的物タル金錢又ハ物ノ支拂又ハ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産

二
（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム）ガ第一條第一項ノ管理ニ付セラレタルトキハ其
ノ財産（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム）ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得
ズ

前項ニ規定スルモノノ外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之
ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモ
ノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産

二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資

三 本邦證券

四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ免レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對

シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲敵産管理委員會ヲ置ク
敵産管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於
テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行爲ノ時ニ
遡リテ之ヲ無効トス

拓甲 三七九

昭和十六年十二月二十日

内閣書記官長

五

内閣書記官

十六年十二月二十日
十六年十二月二十日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

右

海軍大臣

商工大臣



厚生大臣

左

内務大臣



司法大臣

五

逓信大臣

五

陸軍大臣



大藏大臣

興

文部大臣



鐵道大臣

五

陸軍大臣



農林大臣

右

拓務大臣

右

別紙拓務大臣請議南洋群島ニ於

法制局

ケル敵産管理ニ關スル件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈上案附箋ヲ通

内閣總理大臣

大臣官

昭和十一年八月二十日

法制局抄第三〇一號

昭和十六年十二月二十日



主任 殖産局川本書記官



殖總第二〇〇三號

南洋群島ニ於ケル敵産管理ニ關スル件

般敵産管理法制定ノ趣旨ニ鑑ミ南洋群島ニ於テモ敵國及敵國人等
財産ヲ管理スル爲南洋群島ニ敵産管理ニ關スル件ヲ施行スルノ要
アリ仍テ別紙勅令案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

昭和十六年十二月二十日

拓務大臣 井野碩哉



内閣總理大臣 東條英機 殿

拓甲三七九

拓務省

分投

朕南洋群島ニ於ケル敵産管理ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

ム

御名御璽

昭和十六年十二月二十二日

内閣總理大臣

拓務大臣

勅令第千百八十號

南洋群島ニ於ケル敵産管理ニ關シテハ敵産管理法(第十一條ノ規定ヲ除ク)及、

敵産管理法中本法トアルハ本件廳長官ト入

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

上 奏 書 用 紙

理由

南洋群島ニ於ケル敵國及敵國人等ノ財産ニ關シ管理人ノ設置、賣却
命令其ノ他ノ措置ヲ講ジ得ルノ途ヲ拓ク等ノ必要アルニ依ル

參照

敵
產
管
理
法

IMT 658

351

敵産管理法

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選任シ之ヲ管理セシムルコトヲ得

本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ヲ謂フ

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債權ノ目的物タル金錢又ハ物ノ支拂又ハ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産

二
（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム）ガ第一條第一項ノ管理ニ付セラレタルトキハ其ノ財産（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム）ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スルモノノ外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産

二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資

三 本邦證券

四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ免レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對

シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲敵産管理委員會ヲ置ク
敵産管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於
テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行爲ノ時ニ
遡リテ之ヲ無効トス

閣甲五〇一

昭和十六年十二月二十四日

内閣書記官長

上

内閣書記官



昭和十六年十二月二十九日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

有

陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣

至

厚生大臣

有

内務大臣



海軍大臣

有

農林大臣

有

鐵道大臣

有

鈴木國彦大臣



大藏大臣

興

司法大臣

有

商工大臣

有

拓務大臣

有

別紙内閣總理大臣請議關東州敵産管
理令制定ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

一三

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

治
制
局

法制局令第...之號

昭和十六年十二月廿三日

滿經第二四〇九號

關東州敵產管理令制定ノ件

關東州ニ於ケル敵國及敵國人等ノ財産ニ關シ管理人ノ設置、賣却命令
其ノ他ノ措置ヲ拓ク等ノ要アル爲敵產管理令ヲ制定スル要アリト認ム
而別紙勅令案ヲ提出ス

閣議ヲ請フ

昭和十六年十二月二十二日

內閣總理大臣 東條英機



內閣總理大臣 東條英機 殿

昭和甲五〇一

寸

月

令 (出)

朕關東州敵產管理令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年十二月二十七日

内閣總理大臣

勅令第千二百五十一號

内

閣

關東州敵産管理令

關東州ニ於ケル敵産ノ管理ニ關シテハ敵産管理法ニ依ル
府トアルハ、
法トアルハ本令トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第X條

シ同法中政
ハ使トシ本

理由

關東州ニ於テモ敵國及敵國人等ノ財産ニ關シ管理人ノ設置、賣却命令
其ノ他ノ措置ヲ講ズルノ途ヲ拓ク等ノ要アルニ依ル

内
閣

參照

敵產管理法

昭和十六年十二月
法律第九十九號

總理大臣
副署

敵産管理法

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選任シ之ヲ管理セシムルコトヲ得

本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ヲ謂フ

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債權ノ目的物タル金錢又ハ物ノ支拂又ハ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産

二
（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム）ガ第一條第一項ノ管理ニ付セラレタルトキハ其ノ財産（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム）ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スルモノノ外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産

二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資

三 本邦證券

四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ免レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對

シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲敵産管理委員會ヲ置ク
敵産管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於
テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行爲ノ時ニ
遡リテ之ヲ無効トス

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 3511-A

TITLE: Bound Volume "File of Official Documents" (KOBUN RUI SHU)
Series 65: 1941, Volume 106 on Finance; (Cabinet Decisions)

SOURCE: Cabinet Secretariat

MICROFILMING

Document 3511-A Source: Cabinet Secretariat
has been microfilmed on 27 Oct. 1948 for
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON
Files Unit
Document Division

Volume 65

No. 106

1941

Item 6 ^{Decision} a Drafted on July 24, 1941

Decided by the cabinet meeting on July 25, 1941

Signed by the Premier KONOE, Fumimaro
and ~~the~~ Ministers ~~of~~ including

Foreign Affairs	TOYODA, Teijiro
Home Affairs	TANABE, Harumichi
Finance	OGURA, Masatsune
Army	TOJO, Hideki
Navy	OIKAWA, Koshiro
Justice	KONOE, Fumimaro
Education	HARADA, Kenjiro
Agric. & Forestry	INO, Hironaka
Commerce & Industry	SAKONJI, Seizo
Communication	MURATA, Shozo
Railways	MURATA, Shozo
Overseas Affairs	TOYODA, Teijiro
Welfare	KOIZUMI, Chikahiko
without Portfolio	HIRANUMA, Kiichiro
	YANAGAWA, Heisuke
	SUZUKI, Teichi

傳ト手段及ビコノ抑壓政策ガ獨逸ト密接ニ協力シテ
 遂行サレカクシテ締結サレタバカリノ三國條約ニ實
 際上ノ意思ノ表示ヲ爲シタ遣リ口ヲ述ベルデアラウ。

一、準備期間

佛領印度支那ハ南亞細亞ニ於テ最モ重要ナ要害ノ地
 點ヲ占メテキル。ソノ北方國境ハ支那ノ南方國境ニ
 接シソノ國ヲ「シヤム」ト「ビルマ」ニ結ビツケテ
 キル、斯クシテ新京、漢口、廣東、河内及ビ盤谷ニ
 通ズル交通路ヲ形成シテキル。

一方、佛領印度支那ハ日本ガ同様ニ關心ヲ寄セテキ
 タ領土ノ焦點デアル。

是等ノ領土ハ香港、馬來、シンガポール、蘭領印度
 及ビフィリッピンデアッタ。

故ニ佛領印度支那ハ是等ノ領土ニ對スル日本ノ將來
 ノ膨脹ニトツテハ俟クベカラザル海軍並ビニ航空ノ
 基地ヲ構成シテキタ。

最後ニ米、ゴム及ビ他ノ原料ノ生産ニ富ンデキル印
 度支那ハ戰爭準備ニ於テハ日本ノ經濟ニトツテ重要
 ナル援助デアッタ。若シモ是等ノ事實ヲ綜合シテ全

Measures of Revenge on U.S.A.

The cabinet ~~meeting~~ is asked by the Finance Minister
to approve the following:

Japan will restrict the dealings
with ~~the~~ Americans on the basis of
the Foreign Exchange Control Law, if America
issues a Capital Freezing Order against Japan.

The same measures will be taken

~~also~~ also in Manchuria and China.

Item 7

Drafted on July 26, 1941

Decided at the cabinet meeting on July 27, 1941

Signed by the Ministers

same as Item 6

Measures of Revenge ^{against} ~~in~~ Britain

The cabinet meeting is asked by the Finance Minister
to approve the following:

Japan will take similar measures as those
to be taken against America, if Britain issues
a Capital Freezing Order against Japan.

裁判長以立ビニ法廷ノ請官

我々ハ今、佛蘭西及ビ佛領印度支那ニ對スル日本ノ侵略行爲ヲ取扱ツテキル事件ノ真相ヲ提示シ如何ニシテ日本ガ侵略戰爭及ビ國際法、條約、協約立ビニ保證ニ違反セル戰爭ヲ計畫シ、準備シ、開始シ且遠行シタカラ示サウトスルモノデアアル。此ノ證據ハ起訴狀ノ訴因一カラ五迄、而シテ特ニ訴因十五、二十三及ビ三十三ニハ關係深キモノデアラウ。

三重ノ目的、一即チ支那ニ對スル軍事行動ノ終結ヲ促進セシメ、南西亞細亞ニ對スル膨脹政策ヲ指導シ且印度支那ノ富、特ニ缺乏シテキル日本經濟ニトツテ缺クベカラザルゴムト米トヲ獲得スル一ツ實現サセル爲、日本ハ佛領印度支那ヲソノ征服セント欲シタ領土内ニ故意ニ包含シタトイフ事ガ證明サレルデアラウ。我々ハ、日本ガ武力行使ニヨツテコノ計畫ヲ實行セント決定シタ事、及ビ一九三九年迄ニ對佛戰ノ原則ガ樹立サレテキタ事ヲ實證スルデアラウ。

我々ハ日本ガ、佛蘭西ノ軍事的敗北ト印度支那ノ脆弱ヲ孤立ヲ利用シテ是等ノ謀計ヲ實行ニ移シタ經

Item 8

Drafted on July 29, 1941

Decided ~~by~~ ^{at the} cabinet meeting on July 29, 1941

Signed by the Ministers

same as Item 6.

Measures of Retaliation on the Dutch East Indies

~~The cabinet meeting is asked by the Finance Minister.~~

The Decision is same as in Item 7.

Item 9

~~Drafted on Dec. 16, 1941~~

~~Published on Dec. 23, 1941~~

~~Signed by the Premier TOJO, Hideki~~

~~The Ministers of~~

~~Foreign Affairs TOGO, Shigenori~~

~~Home Affairs TOJO, Hideki~~

~~Finance KAYA, Okinori~~

~~Army TOJO, Hideki~~

~~Navy SHIMADA, Shigetaro~~

~~Justice IWAMURA, Michiyo~~

~~Education HASHIDA, Kunihiko~~

~~Agric. & Forestry INO, Hiroya~~

~~Commerce & Industry KISHI, Nobusuke~~

~~Communication TERASHIMA, Ken~~

~~Railways HATTA, Yoshiaki~~

~~Overseas Affairs INO, Hiroya~~

~~Welfare KOIZUMI, Chikahiko~~

~~without Portfolio SUZUKI, Teichi~~

Doc. 6910

- 1

文書番號六千九百一〇

佛蘭西國、泰國關係

佛領印度支那ニ對スル侵略

劈頭陳述

佛蘭西陪席檢察官

ロベル オネト

補佐官

ロツヂヤイ デポー 少佐

ルキス メリイ 中尉

Regulation to Control the Property of Enemies

The Imperial sanction is asked by the Premier and the Finance Minister.

This draft is submitted because there arises a necessity to take a stronger measure against the enemy after the issue of waging the war against America and England; such as to order the management of the property of enemies by force.

The main points of this law are as follows: -

Japanese Government can manage the property of enemies by selecting the ^{ADMINISTRATOR} manager, if it is necessary.

Japanese Government can order to sell the property of enemies to the man appointed by the Gov't.

Enemies can not manage the properties which is belonging to them or is kept by them.

of con. I...
to be...
of the...
of the...

of the...
of the...
of the...
of the...

of the...
of the...
of the...
of the...

of the...
of the...
of the...
of the...

of the...
of the...
of the...
of the...

of the...
of the...
of the...
of the...

of the...
of the...
of the...
of the...

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. ~~14~~ 3511 - A

Date 6 August 47

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT ^{volume}

Title and Nature: Bound "file of official Documents" (KOBUN RUI SHU) Series 65, 1941. Volume 106 on Finance: (Cabinet Decisions)
Date: July 1941 Original Copy () Language: Japanese

Has it been translated? Yes () No
Has it been photostated? Yes () No

LOCATION OF ORIGINAL

For Dir.

SOURCE OF ORIGINAL:

Cabinet Secretariat.

PERSONS IMPLICATED:

~~Cabinet members~~ (See below).

CRIMES OR PHASE TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

Relations with the U.S., England, and the Netherlands.

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Items 6, 7, and 8 reveal approval of the cabinet for retaliatory economic measures. Details are not given in the present document.

(Typist, please see notes attached)

Analyst:

W. Haquer

Doc. No. 3511 - A

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc No 3511-A

Date 6 August 1947

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Bound volume "File of Official Documents" (KOBUN RUI SHU) Series 65; 1941. Volume 106 on Finance; (Cabinet Decisions)

Date: July 1941 Original (X) Copy () Language: Jap

Has it been translated? Yes () No (X)

Has it been photostated? Yes () No (X)

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL

Cabinet Secretariat

PERSONS IMPLICATED

(see below)

CRIMES OR PHASE TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE

Relations with the U.S., England and the Netherlands

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Items 6, 7 and 8 reveal approval of the Cabinet for retaliatory economic measures. Details are not given in the present document.

Item 6: Decision drafted on July 24, 1941.
Decided by the Cabinet meeting on 25 July 1941.

Signed by the Premier
and Ministers including
Foreign Affairs
Home Affairs
FINANCE
Army
Navy
Justice
Commerce & Industry
Communication
Railways
Overseas Affairs
Without Portfolio

KONOYE, Fumimaro.

TOYODA, Teijiro

TANABE, Harumichi

OGURA, Masatsune

TOJO, Hideki

OIKAWA, Koshiro

KONOYE, Fumimaro.

SAKONJI, Seizo

MURATA, Shozo

MURATA, Shozo

TOYODA, Teijiro

HIRANUMA, Kiichiro

YANAGAWA, Heisuke

SUZUKI, Teiichi

Doc No 3511-A

Page 1

CHRONOLOGICAL SUMMARY

The following pages contain a summary in chronological order of such parts of the oral and documentary evidence given by the Prosecution up to December 10, 1946, as are reasonably capable of being dealt with in that way. Dated events are brought together into one story regardless of the phase in which they were introduced, including the various offices from time to time held by the Accused, which the Prosecution contends make them in a greater or less degree responsible for what took place during their tenure of office. These are in all cases extracted from Exhibits 102-129 inclusive. In some cases appointments have been omitted from the personnel record of the individual, but are to be found in Exhibit 102, where the name is listed under the office.

It does not purport to cover the whole case for the Prosecution. In particular the following matters are omitted and can be separately treated if necessary:

1. Evidence dealing generally with a subject but not related to any particular date.
2. Evidence relating to Class B and C offences.
3. Supplementary evidence introduced at the close of the case relating to individual accused.

The effect of the evidence or document is of course much condensed, but the page of the record, name of the witness or number of the exhibit is in each case given, so that it can be checked or supplemented from the original.

The names of the accused only, wherever they appear, are in block capitals.

At the end of the summary there is:

1. A list of subjects not fully covered by the summary with reference to pages and exhibits in which they are dealt with.
2. An index giving the pages of the summary on which each accused is named and those covering the periods during which he held a major office, with in some cases other notes concerning him.

DOC NO 3511-A

Measures of Revenge on U.S.A.

The Cabinet is asked by the Finance Minister to approve the following:

Japan will restrict the dealings with Americans on the basis of the Foreign Exchange Control Law, if America issues a Capital Freezing Order against Japan.

The same measures will be taken also in Manchuria and China.

Item 7: Drafted on July 26, 1941
Decided at the Cabinet meeting on July 27, 1941.
Signed by the Ministers, same as Item 6

Measures of Revenge Against Britain

The Cabinet meeting is asked by the Finance Minister to approve the following:

Japan will take similar measures as those to be taken against America, if Britain issues a Capital Freezing Order against Japan.

Item 8: Drafted on July 29, 1941.
Decided at the Cabinet Meeting of July 29, 1941.
Signed by the Ministers, same as Item 6

Measures of Revenge on the Dutch East Indies

The decision is same as in Item 7.

Item 9:

Analyst: W. H. Wagner

Doc No. 3511-A
Page 2

PAGE 4
WITNESSREFERENCE

- 1990 Tanaka ITAGAKI knew of the installation of guns at Mukden under the pretext of building a well. Strict secrecy was being observed and the completion date was 10 September.
- 1935 179-D On 12 September KIDO and his associates met to discuss the latest underhand moves of the Army.
- 2006 Tanaka On 15 or 16 September Shidehara heard from the Japanese Consul in Mukden that a company commander of a patrol unit stated that within a week a big incident would break out.
- On 18 September the positions of the accused were as follows:
- ARAKI, Sadao, Chief of General Affairs Department of Inspectorate General of Military Training;
 - DOHIMARU, Kenji, Lt. Col. attached to Headquarters Kwantung Army; Major of Mukden;
 - HASHIMOTO, Kingoro, Lt. Col. General Staff (War Ministry) and Military Science Instructor;
 - HATA, Shunroku, Lt. Gen. Inspector of Artillery;
 - HIRANUMA, Kiichiro, Vice President of Privy Council; President of Kokukonsha (founder);
 - HIKOTA, Koki, Ambassador to USSR;
 - HOSHINO, Naoki, various posts in Finance Ministry;
 - ITAGAKI, Seishiro, Colonel on Staff Kwantung Army;
 - KAWA, Okinori, Secretary of Special Administration and Financial Council (Finance Ministry);
 - KIDO, Koichi, Chief Secretary to Lord Keeper of Privy Seal;
 - KIMURA, Heitaro, Colonel in command 22nd Field Artillery Regiment;
 - KOISO, Kuniaki, Lt. General, Chief of Military Affairs Bureau, War Ministry; Chief Secretary, Supreme War Council;
 - MATSUI, Iwane, Lt. General, Commander in Chief of 11th Division;

#3511-A

RESTRICTED

Not Available to Defense

PAGE EXHIBIT
 WITNESSREFERENCE

of the London Naval Treaty of 1930. Defendant HIRANUMA was vice-president at all the meetings.

9168 911

On 1 October 1930 a Privy Council meeting was held to discuss the Imperial Ratification of the London Naval Treaty of 1930. HIRANUMA was vice-president.

102

On 14 April the Wakatsuki Cabinet succeeded the Hamaguchi Cabinet. Their policy was conciliatory, but was greatly strained by the outbreak of the Manchurian Incident. A group of young Army officers led by HASHIMOTO and OKAWA were planning occupation of Manchuria and overthrow of the government at this time.

1402 Shimizu

163,
Part II

In March OKAWA, HASHIMOTO and others participated in a plot to overthrow the government, which failed due to withdrawal of the military.

2199 186

The Nippon Times of 6 August quotes a speech by MINAMI in which he stated some people are advocating limiting armaments in view of the international attitude to Japan's desires in Manchuria. Such mistakes should be corrected and points out the close relations between Manchuria, Mongolia and Japan. He hoped training of troops would be executed with enthusiasm and sincerity so the cause of His Majesty might be served to perfection. (Certificate confirming the speech's existence is contained in Exh. 185.)

1934 179-C

On 9 September KIDO, Konoye and others conferred and discussed the secret march plot of the militarists to overthrow the government and that these affairs might not disappear. OKAWA's faction is advocating socialistic nationalism under Imperial rule.

1935 179-E

On 10 September a discussion was held at Prince Konoye's house stating that self-defensive action might in future be unavoidable in the China situation:

DOC NO 3511-A

Measures of Revenge on U.S.A.

The Cabinet is asked by the Finance Minister to approve the following:

Japan will restrict the dealings with Americans on the basis of the Foreign Exchange Control Law, if America issues a Capital Freezing Order against Japan.

The same measures will be taken also in Manchuria and China.

Item 7: Drafted on July 26, 1941
Decided at the Cabinet meeting on July 27, 1941.
Signed by the Ministers, same as Item 6

Measures of Revenge Against Britain

The Cabinet meeting is asked by the Finance Minister to approve the following:

Japan will take similar measures as those to be taken against America, if Britain issues a Capital Freezing Order against Japan.

Item 8: Drafted on July 29, 1941.
Decided at the Cabinet Meeting of July 29, 1941.
Signed by the Ministers, same as Item 6

Measures of Revenge on the Dutch East Indies

The decision is same as in Item 7.

Item 9:

Analyst: W. H. Wagner

Doc No. 3511-A
Page 2

<u>PAGE</u>	<u>EXHIBIT WITNESS</u>
-------------	----------------------------

6400	555-C
------	-------

REFERENCE

Germany be compensated for loss of Japanese mandated territories but Japan should retain them. Ambassador confirmed this.

6394	554
------	-----

Imperial rescript issued on 27 September was addressed to the Japanese people and attempted to gain support of Tri-Partite Pact, giving the impression it was concluded for peace and security amongst nations. TOJO, and HOSHINO's names appeared as principal officers of the government. On the same day the German Ambassador in Tokyo thanked MATSUOKA for favorable participation in Pact negotiations and generally extending hand of friendship.

On 28 September MATSUOKA resigned as Overseas Minister but retained other posts.

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc No 3511-A

Date 6 August 1947

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Bound volume "File of Official Documents" (KOBUN RUI SHU) Series 65; 1941. Volume 106 on Finance; (Cabinet Decisions)

Date: July 1941 Original (X) Copy () Language: Jap

Has it been translated? Yes () No (X)

Has it been photostated? Yes () No (X)

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL

Cabinet Secretariat

PERSONS IMPLICATED

(see below)

CRIMES OR PHASE TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE

Relations with the U.S., England and the Netherlands

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Items 6,7 and 8 reveal approval of the Cabinet for retaliatory economic measures. Details are not given in the present document.

Item 6: Decision drafted on July 24, 1941.

Decided by the Cabinet meeting on 25 July 1941.

Signed by the Premier
and Ministers including
Foreign Affairs
Home Affairs
~~FINANCE~~
Army
Navy
Justice
Commerce & Industry
Communication
Railways
Overseas Affairs
Without Portfolio

KONOYE, Fumimaro
TOYODA, Teijiro
TANABE, Harumichi
OGURA, Masatsune
TOJO, Hideki
OIKAWA, Koshiro
KONOYE, Fumimaro
SAKONJI, Seiso
MURATA, Shozo
MURATA, Shozo
TOYODA, Teijiro
HIRANUMA, Kiichiro
YANAGAWA, Heisuke
SUZUKI, Teiichi

Doc No 3511-A
Page 1

*Scanning Unit
Summary Analyses Only -
never translated*

<u>PAGE</u>	<u>EXHIBIT WITNESS</u>
6400	555-C

REFERENCE

Germany be compensated for loss of Japanese mandated territories but Japan should retain them. Ambassador confirmed this.

6394	554
------	-----

Imperial rescript issued on 27 September was addressed to the Japanese people and attempted to gain support of Tri-Partite Pact, giving the impression it was concluded for peace and security amongst nations. TOJO, and HOSHIKAWA's names appeared as principal officers of the government. On the same day the German Ambassador in Tokyo thanked MATSUOKA for favorable participation in Pact negotiations and generally extending hand of friendship. On 28 September MATSUOKA resigned as Overseas Minister but retained other posts.